自動で動く機械とAIで判断する機械（水やりの例）

決まった動きをする機械と、AIで判断する機械は、何がちがうのだろう

1 決まった時間に動く

（タイマー）



毎朝7時



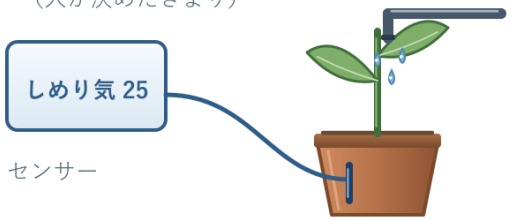
時刻	7時になった
↓	
判断	決まった時間か
↓	
動き	5分、水を出す

○ しくみがかんたん

△ 雨の日や、土がしめっていても水を出す

2 センサーの値で動く

（人が決めたきまり）



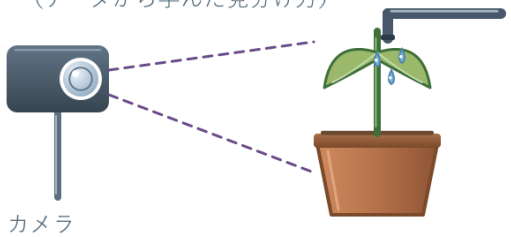
センサーの値	しめり気 25
↓	
判断	30より小さいか（例）
↓	
動き	水を出す

○ 土の様子に合わせられる

△ きまりにないこと（葉のしおれや病気）は分からない

3 AIで状況を見分けて動く

（データから学んだ見分け方）



カメラの映像	葉の写真	
↓		
AIの判断	しおれている	AI
↓		
動き	水を多めに・知らせる	

○ きまりを書きにくい様子も見分けられる

△ まちがえることがある（人が確かめる）。学習のためのデータが要る

くらべてわかること

どれも同じ流れ

入力 → 判断（処理）→ 動き（出力）。
ちがうのは、判断のしかた

AIは「見分ける」が得意

決まったきまりで書きにくい様子を、
データから学んで見分ける

目的に合わせて選ぶ

費用・電力・確かさも考える。
AIがいつもいちばんよいとは限らない

※ 架空の例。時刻・センサーの値・きまりは説明のためのもの。